

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

令和3年度

事業報告書及び決算書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日



EXPO'90
FOUNDATION

令和3年度

I. 事業

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、各種事業を行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の感染拡大により、各事業の中止、延期を余儀なくされたが、令和3年度は、オンラインにおいて委員会や催事を行うなど、コスモス国際賞をはじめ、助成事業等を実施したほか、コロナ特集としての情報誌『KOSMOS』8号、9号の発刊を行った。

また、ニューノーマルに則した新しい事業を企画すると共に、令和4年度からの指針となる新たな中期計画を策定した。

1. 顕彰事業

（1）コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の2021年（第28回）は、受賞者の選考を行い、オーストラリアの考古学者ピーター・ベルウッド博士を7月の理事会で決定した。

なお、感染症の影響により受賞者の来日が望めないことから、授賞式を中止したが、受賞記念講演会をオンラインにて開催した。

（2）BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的なPRのため、平成19年度よりBIE（博覧会国際事務局（本部パリ））と当該博覧会協会が行う「BIE コスモス賞」については、アラブ首長国連邦ドバイにて開催の国際博覧会のBIEデー（3月30日開催）にて「ナークセ肉食動物保護プロジェクト（ナミビア共和国）」に賞金2万€を授与した。

（3）全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第31回（2021年）花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：1,031件

入賞：農林水産大臣賞、国土交通大臣賞 各2点及び文部科学大臣賞1点をはじめ27点

開催日（表彰式）：感染症拡大のため中止（受賞者に書面にて通知）

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会（当協会、（公財）日本花の会、（公財）都市緑化機構、（一財）日本花普及センター）

2. 助成・協働事業

(1) 花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施した。

なお、被災地の復興活動支援については、阪急電鉄株式会社からの寄附金を充当し実施した。

ア. 令和3年度助成事業

令和3年度は、別表1の32団体に対し、総額事業費13,453,451円の助成を行った。また、感染症拡大の影響を受けた1団体が、次年度に改めて実施することとなったため、それに当たる助成金998,000円を令和4年度に追加支出する予定である。

(別表1)

	助成団体名	事業名
調 査 研 究	ひろしま野生動物研究グループ	ノネコの行動特性の解明
	NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ	浅間山の草原・森林における動植物モニタリング調査
	特定非営利活動法人 awarart	蟹殻の米・花における効果調査
	小笠原固有昆虫保全研究会	小笠原固有の絶滅危惧昆虫類の保全手法の開発と実践
	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の保全手法の開発普及と現状把握調査
	国際湿地生物研究グループ	消滅の危機にある塩性湿地の水生双翅目昆虫相の解明
	モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発
	タンボポ調査・西日本実行委員会	タンボポ調査・西日本2020
活 動 ・ 行 催 事	久保川イーハトーブ自然再生協議会	放棄農地を生物多様性の高い水辺環境に変える自然再生
	かたつむりミュージアム ラセン館	カタツムリ博物館の開館と普及啓発活動
	ユウパリコザクラの会	夕張岳天然記念物指定25周年記念事業
	特定非営利活動法人白神山地を守る会	白神山地世界遺産登録28周年記念フォーラム開催事業
	ひらかたプレーパーク実行委員会	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成業
	江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト
	つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動
	公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験～
	特定非営利活動法人日本高山植物保護協会	大学生による三つ峠山アツモリソウ集団の保全活動
	ウミガメネットワーク三重	ウミガメで本物を伝える！
	特定非営利活動法人フォレストサポートクラブ	学校林整備（植樹・育樹）・PTC活動の実施

活動・行催事	特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんが伝える「樹木の生き方」
	生駒山昆虫観察の会	「生駒山昆虫観察会 2021～森の生態を探る」
	山形県立置賜農業高校農業クラブ花いっぱいプロジェクトチーム	川西町 花いっぱいプロジェクト
	源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり「藤袴祭」
	里山の山野草を守る会	自生する山野草の保全と管理
	NPO 法人自然回復を試みる会・ビオトープ孟子	孟子不動谷ユネスコ未来遺産運動
復興活動支援	西日本自然史系博物館ネットワーク	令和2年7月豪雨で水損した前原勘次郎植物標本の修復
	特定非営利活動法人チームふくしま	震災から10年 ひまわりプランター設置事業
	特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会	里山から花とみどりあふれる地域づくり
	吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動
	小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園事業・「ハーブ」スキルアップ講習
	特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター	花が育む高校生と地域との交流支援事業
	特定非営利活動法人パワーアップ支援室	心を支え風化を防ぐ花の防潮堤醸成プロジェクト

イ. 令和4年度助成事業

令和4年度実施分については、次のとおり助成団体を決定した。

① 公募及び審査

公募期間：令和3年8月2日（月）～9月10日（金）

応募数：54件（調査研究13件、活動・行催事32件、復興活動支援9件）

審査期間：令和3年10月～令和4年2月

② 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果を令和4年2月18日付けで理事長に答申し、令和4年度の助成対象28件（調査研究6件、活動・行催事15件、復興活動支援7件）を決定した。その後、第112回理事会（令和4年3月）に報告を行った。

（2）地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、次の事業を実施、企画した。

ア. 花と緑の交流広場

助成事業の成果の波及及び地域で活動する団体との交流を目的に「自然と人間との共生フェスタ in 和歌山」の企画、検討を令和元年度より行ってきたが、感染症の影響により2か年度中止したことを鑑み、シンポジウムとして趣旨を変えてオンラインにて実施した。

日時：令和3年8月31日（火）午前12時30分～午後4時

テーマ：南方熊楠が地域に残した功績

共催：公益財団法人南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰会

視聴者数：140名

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 花の万博 30 周年記念事業・協会設立 30 周年記念事業

ア. 万博の桜 2025 事業

2025 年大阪・関西万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上を目指す、募金による「2025 本の桜」植樹事業の実行委員会事務局として、寄附金受入れ及びチラシ配布やテレビ出演による広報事務を行った。

なお、経費の一部として阪急電鉄株式会社からの寄附を充当した。

イ. 協会設立 30 周年記念事業

平成 3 (1991) 年 11 月 1 日に設立された当記念協会の 30 年の節目に当たり、関係者等に 30 周年の挨拶状を送付した。

また、感染症等で生活が変容した中で、花や緑が果たす役割を探るフォーラム「花のある新しい暮らし」をオンライン形式で開催した。

日時：令和 4 年 3 月 24 日 (木) 午後 1 時～午後 4 時

後援：公益財団法人日本花の会、一般社団法人フラワーソサイエティ

視聴者：約 160 名

ウ. 3 公益法人協働事業

公益社団法人日本動物園水族館協会、公益社団法人日本植物園協会との協働事業「自然との共生フォーラム (仮称)」の企画、検討を行った。

(2) 次世代育成事業

「小学校講師派遣」は、感染症対応としてオンライン授業を取り入れ、14 校に対し実施した。なお、「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」は、感染症の影響により中止した。

(3) 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間 (4～6 月)」および「都市緑化月間 (10 月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

(4) 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア. はならんまん

大阪市と当協会との協働により、鶴見緑地にて開催する本催事については、感染症の影響により中止した。

イ. 大阪都市緑化フェア

都市緑化の意識の向上を図ることを目的とした第 36 回大阪都市緑化フェアに参画、実施した。

開催日：令和 3 年 10 月 31 日（日）

主催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

場所：浜寺公園（大阪府堺市）

来場者：約 3,000 名

ウ. みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

緑の街づくりを推進することを目的とした第 10 回みどりのまちづくり賞に参画した。

主催：当協会、大阪府、一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

公募期間：令和 3 年 5 月 17 日（月）～7 月 21 日（水）

応募数・入賞数：26 点・8 点

表彰式日時：令和 3 年 10 月 26 日（火）午後 1 時 30 分～5 時 30 分

場所：花博記念ホール（大阪市鶴見区）

来場者：約 80 名

（5）その他普及啓発事業

ア. 広報・報道活動等

- ・各事業の理解促進・普及を図るためホームページや SNS に事前告知や事業報告等を随時掲載した他、コスモス国際賞の受賞者のインタビュー映像を動画サイトで公開するなど、情報発信を行った。
- ・「自然と人間との共生」に関わる話題を提供する協会情報誌『KOSMOS』8 号、9 号は、人類社会の喫緊の課題である感染症を考察し、ポストコロナ、ウィズコロナを俯瞰したコラムを特集として発刊し、配付した。
- ・花の万博の成果を後世に永く引き継ぐため、協会が保存している映像情報のうち、動画 1,032 本分を新たなメディアに移行した。また、今後の情報提供に資するため花の万博の公式記録 3 冊、業務記録集 30 冊をスキャニングし、DVD 1 枚に収納した。
- ・今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。
国・地方自治体等－13 件、企業・個人－11 件
- ・各行催事等や関係者に配付できるよう、ペーパーファイル、ポストカード、扇子を製作した。
- ・各種行催事等に別表 2 のとおり協賛・後援・会長賞の交付を行った。

(別表 2)

催事名 (開催時期)	開催場所	主催	名義等
令和3年度大阪府立花の文化園 「幼児・小中学生花の絵画展」 (R4. 1. 5～2. 6)	大阪府立花の文化園 イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E- DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
令和3年度「都市緑化月間」 (R3. 10. 1～10. 31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
第76回日本おもと名品展 (R3. 11. 27～11. 28)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
「学びあい、共に語ろう！グリー ンインフラ」WEB シンポジウ ム (R3. 12. 7)	オンライン	一般財団法人日本造園修景協 会京都府支部	協力
博覧会の展覧会 Part2「大阪の 博覧会」 (R3. 12. 4～12. 25)	大阪府立中之島図書館 (大阪市北区)	ShoPro・長谷工・TRC 共同事業 体 代表企業 株式会社小学館集英 社プロダクション	後援
小品盆栽フェア第30回春雅展 (R4. 3. 25～3. 27)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽 協会	後援 会長賞
グローバル時代の「日本庭園」 を考えるシンポジウム (R4. 3. 12)	京都大学国際科学イノベー ション棟シンポジウムホー ル (京都市左京区)	公益財団法人都市緑化機構	後援

イ. 生物多様性関連

地域環境計画株式会社の寄附の申し出を受け、寄附の条件である生物多様性事業の企画検討を行った。

(6) 国際交流事業

「高校生のための生き物調査体験ツアーin 台湾」は感染症の影響を鑑み、オンラインにて「日台ユース生き物調査オンラインセミナー」として実施した。

開催日：令和3年8月1日（日）

主 催：当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園

視聴者：約 190 名

4. 調査研究・資料収集事業

調査研究については、事業の波及効果等の向上を目的に、SDGs やメセナを積極的に行っている企業を対象として、協働、共催の連携を探る予定であったが、感染症の影響を鑑み、実施を見送った。

5. 附属明細書

事業における重要な事項は令和3年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。

令和3年度

II. 庶務・管理

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

1. 理事会、評議員会等

(1) 第108回理事会 令和3年6月16日(水)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和2年度事業報告及び収支決算について

定時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について

評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について

評議員会に提出する監事候補者名簿(案)について

役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について

役員報酬について

(2) 第109回理事会 令和3年6月24日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行理事)の選定について

参与の選任について

(3) 第110回理事会 令和3年7月13日(火)

開催場所：ステーションコンファレンス東京(東京都千代田区)

決議事項：2021年(第28回)コスモス国際賞受賞者の決定について

(4) 第111回理事会 令和3年9月17日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

令和3年度収支予算の補正について

決議の省略の方法による評議員会の招集について

(5) 第112回理事会 令和4年3月18日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和4年度資産運用方針書について

特定資産の取崩しについて

特定資産について

特定費用準備資金の保有について

令和4年度事業計画及び収支予算について

参与の選任について

助成事業審査委員会委員の選任について

諸規程の改廃及び制定について

決議の省略の方法による評議員会の招集について

役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について

(6) 第58回評議員会 令和3年6月24日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：令和2年度事業報告及び収支決算書類の承認について

評議員の選任について

理事の選任について

監事の選任について

(7) 第59回評議員会 令和3年9月30日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取り崩しについて

(8) 第60回評議員会 令和4年3月18日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取り崩しについて

2. 内閣府届出及び情報公開

令和3年6月に決議の省略により開催した理事会、評議員会における令和2年度事業報告及び収支決算、令和4年3月に決議の省略により開催した理事会における令和4年度事業計画及び収支予算、令和3年6月に決議の省略により開催した評議員会における評議員、理事、監事の辞任就任について、それぞれ内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

第三者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

現中期計画が令和3年度末で終了するため、協会内にワーキングチームを設置すると共に、有識者によるアドバイザリー会議を開催し、令和4年度からの指針となる新たな中期計画を策定した。

令和3年度

Ⅲ. 財務諸表

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

貸借対照表

令和4年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	150,317,186	93,829,818	56,487,368
未収収益	79,331,912	88,419,410	△9,087,498
流動資産合計	229,649,098	182,249,228	47,399,870
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	860,344,700	860,344,700	0
基本財産投資有価証券	29,655,300	29,655,300	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2) 特定資産			
記念基金	9,872,778,932	10,250,700,227	△377,921,295
退職給付引当資産	31,034,600	50,705,600	△19,671,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	20,000,000	13,000,000	7,000,000
法人運営安定化資産	40,000,000	60,000,000	△20,000,000
特定資産合計	9,963,813,532	10,374,405,827	△410,592,295
(3) その他固定資産			
投資有価証券	494,374	1,737,136	△1,242,762
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	494,382	1,737,144	△1,242,762
固定資産合計	10,854,307,914	11,266,142,971	△411,835,057
資産合計	11,083,957,012	11,448,392,199	△364,435,187
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	57,084,304	7,868,034	49,216,270
預り金	785,511	875,788	△90,277
賞与引当金	2,542,655	3,395,500	△852,845
流動負債合計	60,412,470	12,139,322	48,273,148
2. 固定負債			
退職給付引当金	31,034,600	50,705,600	△19,671,000
固定負債合計	31,034,600	50,705,600	△19,671,000
負債合計	91,447,070	62,844,922	28,602,148
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	800,000,000	0
特定資産評価差額金等	△127,221,068	250,700,227	△377,921,295
指定正味財産合計	10,762,778,932	11,140,700,227	△377,921,295
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(うち特定資産への充当額)	(9,872,778,932)	(10,250,700,227)	(△377,921,295)
2. 一般正味財産	229,731,010	244,847,050	△15,116,040
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(60,000,000)	(73,000,000)	(△13,000,000)
正味財産合計	10,992,509,942	11,385,547,277	△393,037,335
負債及び正味財産合計	11,083,957,012	11,448,392,199	△364,435,187

正味財産増減計算書

令和3年4月1日 から 令和4年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,209,991	3,949,508	260,483
基本財産受取利息	4,209,991	3,949,508	260,483
特定資産運用益	221,098,722	226,460,188	△5,361,466
記念基金受取利息	218,946,722	226,438,089	△7,491,367
特定資産受取利息	0	22,099	△22,099
記念基金投資有価証券償還益	2,152,000	0	2,152,000
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
雑収益	855,000	0	855,000
雑収益	855,000	0	855,000
経常収益計	230,163,713	234,409,696	△4,245,983
(2) 経常費用			
事業費	177,707,231	85,230,304	92,476,927
役員報酬	8,790,446	8,336,076	454,370
給与手当	35,665,018	33,646,803	2,018,215
法定福利費	6,380,242	5,771,688	608,554
退職給付費用	2,706,809	1,628,261	1,078,548
賃金	1,420,801	1,477,900	△57,099
職員厚生費	185,181	130,141	55,040
会議費	474,678	43,263	431,415
旅費交通費	567,706	32,312	535,394
通信運搬費	1,854,081	1,289,143	564,938
広告費	1,234,594	0	1,234,594
消耗什器備品費	2,807,063	206,062	2,601,001
消耗品費	2,359,497	1,128,808	1,230,689
印刷製本費	1,002,225	914,617	87,608
光熱水料費	2,472,583	2,326,654	145,929
修繕費	0	100,100	△100,100
役務費	89,236	98,560	△9,324
委託費	26,186,852	7,437,035	18,749,817
賃借料	3,367,547	4,151,003	△783,456
使用料	674,807	575,139	99,668
保険料	211,862	213,472	△1,610
諸謝金	5,819,844	2,208,069	3,611,775
租税公課	8,820	2,100	6,720
支払負担金・会費	16,652,599	5,325,809	11,326,790

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
支払助成金	13,453,451	7,957,970	5,495,481
支払手数料	286,518	219,486	67,032
顕彰賞金	42,715,600	0	42,715,600
雑費	319,171	9,833	309,338
管理費	67,572,522	52,473,940	15,098,582
役員報酬	3,767,334	3,572,604	194,730
給与手当	32,400,504	31,175,465	1,225,039
法定福利費	6,376,355	5,969,647	406,708
退職給付費用	2,496,591	1,534,639	961,952
賃金	608,914	633,385	△24,471
職員厚生費	170,800	122,659	48,141
会議費	203,434	18,542	184,892
旅費交通費	243,303	13,848	229,455
通信運搬費	794,606	552,491	242,115
広告費	529,112	0	529,112
消耗什器備品費	1,203,027	88,312	1,114,715
消耗品費	1,011,213	483,775	527,438
印刷製本費	429,525	391,978	37,547
光熱水料費	1,059,678	997,138	62,540
修繕費	0	42,900	△42,900
役務費	38,244	42,240	△3,996
委託費	11,222,936	3,187,301	8,035,635
賃借料	1,443,235	1,779,001	△335,766
使用料	289,203	246,488	42,715
保険料	90,798	91,488	△690
諸謝金	2,494,219	946,315	1,547,904
租税公課	3,780	900	2,880
支払負担金・会費	436,130	484,544	△48,414
支払手数料	122,794	94,066	28,728
雑費	136,787	4,214	132,573
経常費用計	245,279,753	137,704,244	107,575,509
当期経常増減額	△15,116,040	96,705,452	△111,821,492
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△15,116,040	96,705,452	△111,821,492
一般正味財産期首残高	244,847,050	148,141,598	96,705,452
一般正味財産期末残高	229,731,010	244,847,050	△15,116,040

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
受取寄付金	4,000,000	4,000,000	0
基本財産運用益	4,209,991	3,949,508	260,483
基本財産受取利息	4,209,991	3,949,508	260,483
特定資産運用益	228,879,584	539,448,851	△310,569,267
記念基金受取利息	220,189,484	227,680,851	△7,491,367
記念基金投資有価証券償還益	8,690,100	311,768,000	△303,077,900
特定資産評価損益等	△384,459,395	469,223,645	△853,683,040
記念基金投資有価証券評価損益等	△384,459,395	469,223,645	△853,683,040
一般正味財産への振替	△230,551,475	△235,630,359	5,078,884
一般正味財産への振替	△230,551,475	△235,630,359	5,078,884
当期指定正味財産増減額	△377,921,295	780,991,645	△1,158,912,940
指定正味財産期首残高	11,140,700,227	10,359,708,582	780,991,645
指定正味財産期末残高	10,762,778,932	11,140,700,227	△377,921,295
III 正味財産期末残高	10,992,509,942	11,385,547,277	△393,037,335

正味財産増減計算書内訳表

令和3年4月1日 から 令和4年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,262,998	2,946,993	4,209,991
基本財産受取利息	1,262,998	2,946,993	4,209,991
特定資産運用益	154,769,108	66,329,614	221,098,722
記念基金受取利息	153,262,708	65,684,014	218,946,722
記念基金投資有価証券償還益	1,506,400	645,600	2,152,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
雑収益	0	855,000	855,000
雑収益	0	855,000	855,000
経常収益計	160,032,106	70,131,607	230,163,713
(2) 経常費用			
事業費	177,707,231	0	177,707,231
役員報酬	8,790,446	0	8,790,446
給与手当	35,665,018	0	35,665,018
法定福利費	6,380,242	0	6,380,242
退職給付費用	2,706,809	0	2,706,809
賃金	1,420,801	0	1,420,801
職員厚生費	185,181	0	185,181
会議費	474,678	0	474,678
旅費交通費	567,706	0	567,706
通信運搬費	1,854,081	0	1,854,081
広告費	1,234,594	0	1,234,594
消耗什器備品費	2,807,063	0	2,807,063
消耗品費	2,359,497	0	2,359,497
印刷製本費	1,002,225	0	1,002,225
光熱水料費	2,472,583	0	2,472,583
役務費	89,236	0	89,236
委託費	26,186,852	0	26,186,852
賃借料	3,367,547	0	3,367,547
使用料	674,807	0	674,807
保険料	211,862	0	211,862
諸謝金	5,819,844	0	5,819,844
租税公課	8,820	0	8,820
支払負担金・会費	16,652,599	0	16,652,599
支払助成金	13,453,451	0	13,453,451
支払手数料	286,518	0	286,518

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
顕彰賞金	42,715,600	0	42,715,600
雑費	319,171	0	319,171
管理費	0	67,572,522	67,572,522
役員報酬	0	3,767,334	3,767,334
給与手当	0	32,400,504	32,400,504
法定福利費	0	6,376,355	6,376,355
退職給付費用	0	2,496,591	2,496,591
賃金	0	608,914	608,914
職員厚生費	0	170,800	170,800
会議費	0	203,434	203,434
旅費交通費	0	243,303	243,303
通信運搬費	0	794,606	794,606
広告費	0	529,112	529,112
消耗什器備品費	0	1,203,027	1,203,027
消耗品費	0	1,011,213	1,011,213
印刷製本費	0	429,525	429,525
光熱水料費	0	1,059,678	1,059,678
役務費	0	38,244	38,244
委託費	0	11,222,936	11,222,936
賃借料	0	1,443,235	1,443,235
使用料	0	289,203	289,203
保険料	0	90,798	90,798
諸謝金	0	2,494,219	2,494,219
租税公課	0	3,780	3,780
支払負担金・会費	0	436,130	436,130
支払手数料	0	122,794	122,794
雑費	0	136,787	136,787
経常費用計	177,707,231	67,572,522	245,279,753
当期経常増減額	△17,675,125	2,559,085	△15,116,040
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△17,675,125	2,559,085	△15,116,040
当期一般正味財産増減額	△17,675,125	2,559,085	△15,116,040
一般正味財産期首残高	97,206,361	147,640,689	244,847,050
一般正味財産期末残高	79,531,236	150,199,774	229,731,010
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
基本財産運用益	1,262,998	2,946,993	4,209,991
基本財産受取利息	1,262,998	2,946,993	4,209,991
特定資産運用益	160,215,711	68,663,873	228,879,584
記念基金受取利息	154,132,641	66,056,843	220,189,484
記念基金投資有価証券償還益	6,083,070	2,607,030	8,690,100
特定資産評価損益等	△269,121,576	△115,337,819	△384,459,395
記念基金投資有価証券評価損益等	△269,121,576	△115,337,819	△384,459,395
一般正味財産への振替	△160,902,039	△69,649,436	△230,551,475
一般正味財産への振替	△160,902,039	△69,649,436	△230,551,475
当期指定正味財産増減額	△264,544,906	△113,376,389	△377,921,295
指定正味財産期首残高	7,774,490,166	3,366,210,061	11,140,700,227
指定正味財産期末残高	7,509,945,260	3,252,833,672	10,762,778,932
Ⅲ 正味財産期末残高	7,589,476,496	3,403,033,446	10,992,509,942

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、

期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,344,700	0	0	860,344,700
投資有価証券	29,655,300	0	0	29,655,300
小 計	890,000,000	0	0	890,000,000
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	10,250,700,227	6,600,000,000	6,977,921,295	9,872,778,932
退職給付引当資産	50,705,600	5,203,400	24,874,400	31,034,600
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	13,000,000	17,000,000	10,000,000	20,000,000
法人運営安定化資産	60,000,000	0	20,000,000	40,000,000
小 計	10,374,405,827	6,622,203,400	7,032,795,695	9,963,813,532
合 計	11,264,405,827	6,622,203,400	7,032,795,695	10,853,813,532

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,344,700	(860,344,700)	(0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	9,872,778,932	(9,872,778,932)	(0)	(0)
退職給付引当資産	31,034,600	-	-	(31,034,600)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	20,000,000	-	(20,000,000)	(0)
法人運営安定化資産	40,000,000	-	(40,000,000)	(0)
小 計	9,963,813,532	(9,872,778,932)	(60,000,000)	(31,034,600)
合 計	10,853,813,532	(10,762,778,932)	(60,000,000)	(31,034,600)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	30,193,050	537,750
小 計	29,655,300	30,193,050	537,750

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	100,065,628	100,390,000	324,372
第20回みずほ銀行劣後債	100,087,318	100,240,000	152,682
第41回阪急阪神HD社債	100,341,428	100,770,000	428,572
小 計	300,494,374	301,400,000	905,626
合 計	330,149,674	331,593,050	1,443,376

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	4,209,991
記念基金受取利息	220,189,484
記念基金投資有価証券償還益	2,152,000
受取寄付金	4,000,000
合 計	230,551,475

7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)5,038百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,395,500	2,542,655	3,395,500	0	2,542,655
退職給付引当金	50,705,600	5,203,400	24,874,400	0	31,034,600

財産目録

令和4年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金	手元保管 りそな銀行大阪公務部 三井住友銀行大阪公務部 三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部 三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	118,319	
			運転資金として	131,127,903	
			運転資金として	10,126,112	
			運転資金として	2,452,263	
			運転資金として	6,492,589	
		現金預金合計	150,317,186		
	未収収益	公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	79,331,912		
流動資産合計				229,649,098	
(固定資産)	基本財産	りそな銀行大阪公務部 三井住友信託銀行大阪本店営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700	
			うち公益目的保有財産である	103,410	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290	
			運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	860,000,000	
			うち公益目的保有財産である	258,000,000	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	602,000,000	
			満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300	
			うち公益目的保有財産である	8,896,590	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710	
				基本財産合計	890,000,000
	特定資産	記念基金	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,872,778,932
				うち公益目的保有財産である。	6,698,400,752
		投資有価証券	第3回日本電産社債他	うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,870,743,180
				満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	300,000,000
		普通預金	りそな銀行大阪公務部	うち公益目的保有財産である。	210,000,000
うち管理目的の財源として使用する財産である。	90,000,000				
運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	3,635,000				
	退職給付引当資産	うち公益目的保有財産である。 うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,544,500 1,090,500		
			31,034,600		

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	21,034,600
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	10,000,000
	国際園芸博覧会出 展事業積立資産			20,000,000
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、アルメーレ及びドーハ園芸博覧会出展事業の財源として管理している。	20,000,000
	法人運営安定化資 産			40,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、法人運営安定化の財源として管理している。	40,000,000
			特定資産合計	9,963,813,532
	投資有価証券	第3回日本電産社債他 (オーバーパー部分)	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。 うち公益目的保有財産である。 うち管理目的の財源として使用する財産である。	494,374 346,062 148,312
什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8	
固定資産合計				10,854,307,914
資産合計				11,083,957,012
(流動負債)	未払金	令和3年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	57,084,304
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	785,511
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	2,542,655
流動負債合計				60,412,470
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員8名に対する退職金の支払いに備えたもの	31,034,600
固定負債合計				31,034,600
負債合計				91,447,070
正味財産				10,992,509,942

令和3年度

IV. 監査報告書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

監査報告書

令和4年5月25日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
会長 御手洗 富士夫 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒一



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

崎元 利樹



私たち監事は、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

（1）事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上